

昭和三十八年五月十五日 第三種郵便物認
三十九年十二月一日(毎月一回一百発)

雪印種苗株式会社

藝園と草収牧

ノミヨミ召子混内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場



欧洲園芸行脚(9)

根の観察室

沢田英吉 北海道大学農学部 園芸第一教室 教授

英国のイーストモーリング試験場と言えば世界的に有名な果樹の試験場である。ここでいろいろな設備をみせてもらったが、その内の一つに、根の生育を観察する地下室があった。

要するにルートボックス (Root Box) の大仕掛けなものとお考え頂ければ結構である。



写真 1

写真1は、地上から撮ったものであるが、中央に白く写っているのは、コンクリートで固めた、地下室の屋根である。この屋根の両側に根の観察に供せられる各種の果樹が植込まれている。屋根の直下は深さ約2メーターくらい掘りさげられ、その両壁はガラス板になっている。

土の圧力に対抗するために両壁面は頑丈な鉄骨で井桁に固めてある。一方の壁面は井桁の寸法が方30掌くらいでガラス板を鉄骨で押さえつけている。

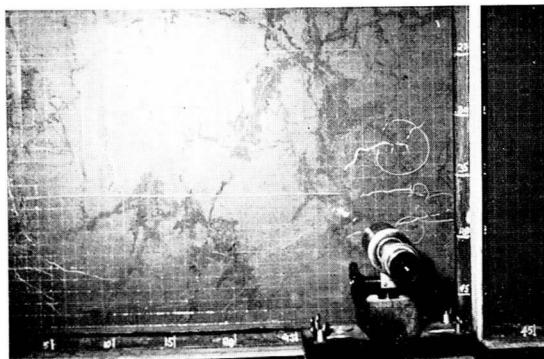


写真 2

このガラスを通して根の活動をみるのであるが、写真2はその状況を示すものである。ご覧のように上下左右に移行し得るようになっている顕微鏡が備えつけになっている。

「根毛の先端から小さな水滴の出ているのがみられますヨ」と言われて、レンズを通してのぞいてみたら、なるほどその通りになっていた。

写真3は前の写真とは反対側の壁面を撮ったものであるが井桁の鉄骨が方30掌くらいで、前よりも一層細かに組まれており、ここでは必要によってはガラス板を取りはずして直かに根を採取することができるようになっている。写真3で、ガラス板を押える鉄板をとめているナットがみられる。

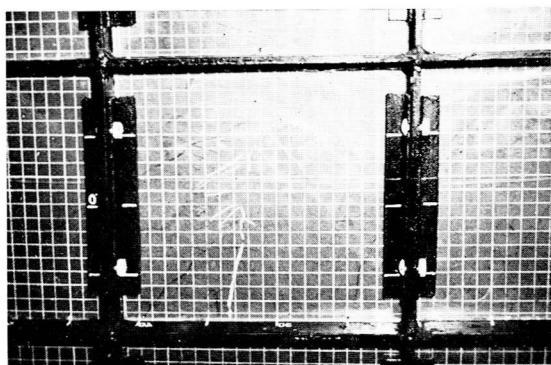


写真 3

人間の出入りは地下室の一端から階段で入りできるようになっている。

ここでの試験場では、専任の技師が居て、1年365日毎日観察を続け、ガラス面に現われた根の動行を図に描いていく。

なおこの設備は全部場員の勤労奉仕（アルバイト）で作り上げたものだと言う説明であった。